

平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000084		
法人名	医療法人 金子病院		
事業所名	グループホーム 合歓の木(Aユニット)		
所在地	柳川市久々原44番地2		
自己評価作成日	平成27年2月27日	評価結果確定日	平成27年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年4月に、当施設開所5年目を迎えることになり、地域に密着した介護施設として地域住民の方々に信頼され、介護の最後の砦としての存在価値を高めている。
特に、隣接する運営母体である病院との24時間連携体制の下、医療介護の全面的支援態勢を確立した医療と介護の両面からの支援は、入居者及びご家族にとっては、終末期に至るまで安心して任せられる施設として頼りにされている。
また、近代的かつ落ち着いたきのある室内・設備において、入居者の皆様は、家庭的な雰囲気の中で、その方が持っている能力に応じた生活ができ、その人らしい暮らしづくりができるように、お手伝いをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目のグループホーム合歓の木は、隣接の医療機関所縁の入居者が多く、ここ以外には受診したくないと話される入居者もあり、また、運営推進会議は地域代表として多数の出席者があり、地域からの信頼の篤さや期待が感じられる。理念に掲げた「その人らしい暮らしづくりのお手伝い」に沿って、入居者のしたいことを見守ることや、その人らしい暮らしづくりを支援しているが、医療的な処置が不可欠な入居者もあり、管理者と職員がともに考えながら取り組んでいる。今年度も2名の入居者の終末期に関わり、是非ホームで自然に最後をとの本人や家族の意向は、毎日訪れる家族と職員達の手厚い支援で叶えられ、静かな看取りとなっている。継続している保育園児との交流会での最後の握手会で見る入居者達の笑顔は、職員達の励みとなり、予定されているポイント制介護ボランティアの導入に併せて、地域に密着したサービスがさらに期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **Aユニット／グループホーム合歓の木**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールとスタッフルームに掲示しており、毎日のミーティング時に、全員で唱和し、その理念を共有している。また、職員に対して、より高いサービス提供について指導している。(職員のマナーアップ向上)	職員達は理念に沿って、入居者のしたいことを見守ること、その人らしい暮らしづくりを支援しているが、医療的な処置が不可欠な入居者もあり、職員と管理者がともに考えながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の団体・組織等に所属する機会や日常的な連携はないが、地域の散策や見学を通じ、努めて地域と関わりが持てるようにするとともに、近傍の保育園児、地元の趣味サークルの方々の慰問により、交流を図っている。	保育園児たちとの交流で、笑顔になる入居者も多く、中学生の施設見学や近所の方の訪問もあり、地域とのつながりを大切にしている。市が導入したポイント制の介護ボランティアの活用を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の委員の方々の他は、その機会がなく、地域貢献活動は低調である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議においては、入居者の状況、行事等の実施状況等、施設の運営状況を説明し、理解をして頂いている。行政機関からは、行政面の指導を受け、地域住民の委員の方からは、イベント、介護の実例等の紹介を頂いている。	市役所高齢福祉担当者、地域包括支援センター担当者、地域区長、老人会女性部長、民生委員が出席し、利用者の参加もある。家族への参加の呼びかけもあるが、出席は少ない。外出先の情報など意見が出され、議事録を整備している。	ホームが認知症ケアの拠点として地域に貢献されるために、地域の参加者が多い運営推進会議の中で、ホームならではのイベントや認知症カフェなどの開催を提案され、理解や協力を拡げられるように期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議において、施設の運営状況を報告し、指導助言を頂いている。また、必要の都度、電話等による連絡指導・意見交換により、密接な協力関係を築いている。	地域包括支援センターには、入居状況を報告している。徘徊ネットワークに加入し、市主催の在宅ケアマネ協議会に参加し、勉強会に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営母体である病院における「身体抑制廃止勉強会」の資料等を紹介し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在、センサーマットやベッド柵の使用はない。いつも自分の手や衣類の袖を吸う入居者は割烹着にアームカバーをして、取り替えられるようにしている。入浴時、身体を出血するほど搔いてしまう入居者に清潔なミトンをつけて入浴させるなど工夫して支援している。言葉による拘束も理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設の取り組むべきケアの特性として、虐待防止については、全職員で意識を持ち、その発生の絶無に務めている。また、病院で行われる委員会等への出席により、意識のさらなる高揚に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「高齢者の権利擁護制度・成年後見制度について」の資料ファイルを作成している。特に、ご家族等の保護者がおられない入居者については、制度に関して関係機関と連絡を取って、本人の権利擁護に努めている。	成年後見制度の資料を整備している。入居前から、日常生活自立支援事業を活用されている方が1名いる。	制度活用がある機会に、成年後見制度と日常生活自立支援事業の制度の違いやその特徴を研修されこと期待します。また、入居時契約時に制度や事業についての説明をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際、「重要事項説明書・個人情報保護等」に関する説明を、丁寧かつ十分に行い、疑義等が無く、理解・同意頂けるように説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等に対しては、公的な相談窓口を紹介するとともに、施設における苦情窓口を明示している。また、玄関ホールに、意見箱を設置し、ご意見等を伺うとともに、ご家族の面会時等にお話を聞き、それらを施設運営に反映させている。	家族の来訪時に、アルバムにした行事やレクリエーションの際の入居者の写真を見ていただきながら、管理者が入居者の現状を報告し、意見をいただいている。遠方の家族には、行事の際の入居者の写真等を送っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時及び職員ミーティング時並びに個別に職員から意見聴取を行い、それらを施設運営に反映させている。	申し送り時やユニット毎の会議で、気付きや提案を話し合っている。入居者のオムツ交換の仕方やパッドの使用数、介護方法などが提案されて、日々のケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から定期的に、また必要の都度、報告を受けることにより、事業所の現状及び問題点を把握して、迅速にその対策に当たっている。また、職員が目標を持って働く職場づくりを指導している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては、性別や年齢等を理由とした排除はしていない。 現在、60歳以上7名の職員を雇用している。職場においては、お互いが協力して楽しく働ける職場づくりを目指している。	ハローワークや求人広告で募集している。職員の離職もあるが、開設当初から就労している職員もあり、20代～60代の職員が勤務している。独立した休憩室で6分のお昼休みが確保され、休日希望は、職員同士の協力で取得できている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	病院内での研修内容を当施設の職員に紹介して、人権尊重のための啓発に地道に取り組んでいる。	市主催の人権講演会に管理者が参加し、職員に伝達講習している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度1名がヘルパー資格を取得した。また、各人が病院研修会への参加や職員間の実践研修に努めている。しかし、勤務ローテーションの関係から職員一同が会することが困難なため、系統だった研修はやや不十分である。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	個別的な繋がりはあるものの、全般的には、同業者との交流活動は、不活発である。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設等からの「状態報告書」やご家族等からの聞き取りにより、本人の状況を把握し、不安なく入居し、施設になじめよう努めている。特に、入居時は職員が声掛けを行い、安心して過ごせるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や申込み時に、ご家族等から被介護者の状況をお聞きし、当施設で対応できる方策等について説明を行い、より良い関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の施設等からの「状態報告書」やご家族等からの聞き取りにより、いま何が本人にとって必要なケアなのかを見極めて対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との会話のやり取りやスキンシップにより、密接な人間関係を構築している。そのために、本人ができること(洗濯物の整理、食器拭き等)は、共同して行うよう心掛けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況の変化及び心情の変化については、積極的にご家族と連絡を取って、報告している。その結果、事後のケアのやり方について助言を頂き、本人を共に支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞き、ご家族に連絡して、友人・知人等の面会を行っている。来訪された方からは、本人の情報をお聞きし、その後の心のケアに努めている。必要に応じ、かかりつけの歯医者及び美容室への往来により、関係を保持している。	家族の協力で、馴染みの美容院に通っている入居者がいる。近隣の方が市報を持って訪問されたり、入居者が兄弟に手紙を送ることを支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	親しい人同士のテーブルの組み合わせや交わりの少ない人は、出来るだけ皆の交流の場に溶け込むように、手を差し出しているが、性格上、身体上、交流を拒絶する方の対応について、やや苦慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方については、お見舞いを行っている。また、ご家族から連絡があった場合には、状況をお聞きし、対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・ご家族等の意向をお聞きし、出来る限り、それらの希望に応えられるよう努めている。	医療ニーズの高い入居者が多く、アセスメントシートには医療情報や心身の情報が記載されている。入浴の際に入居者から話された思いや意向を把握し、ユニット会議で話し合いながら共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、入居前には、利用者・ご家族からそれまでの生活環境等の情報を入手して、入居後に安心して過ごされる環境づくりに努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、定期的に、また、必要の都度バイタルチェックを行い、心身の健康状態を把握し、個人記録(介護・看護記録)に記載している。職員は、その記録をいつでも確認することにより、情報を共有して、現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・ご家族からのご希望及び職員の意見等を聞き、利用者がその人らしい生活が送れるような介護計画の作成に努めている。特に、ユニットごと定期的な会合を持ち、状態の把握と今後の介護方向について、共通の情報を共有している。	ユニット会議で話し合った入居者の意向や思い、優先課題等を参考に介護計画を立案し、申し送り時や夜勤時に計画を共有している。アームカバーの使用でなめる部分の爛れを防いだり、ミトンの使用で掻きむしる行為を防止しながら、安定した生活を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の「介護看護記録等」は、職員誰もがいつでも記入できるようにしており、それらを見ることで情報を共有している。また、ユニットごとの職員会同を持ち、利用者の情報を共有して、介護方針について検討している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人が持つ、他事業所との連携を密接にして、利用者が最も過ごしやすく、色々な機能を利用できる体制づくりに努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバー及びご家族等から、地域行事等の情報を提供していただき、地域の活動に接することで、豊かな暮らしに繋がるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・ご家族の希望を最優先にして、希望がある場合には、かかりつけ医の受診ができるようにしている。	隣接する医療機関に昔から受診しており、ここ以外には受診したくないと話される入居者もあり、毎日、院長がホームを訪れ、入居者と言葉を交わされている。他科受診は、主治医からの紹介状を持参して、家族が受診に同行している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者自身が看護師であり、利用者の日々の状況については、きめ細やかに継続して把握に努めている。また、隣接する病院と密接に連絡して、医療介護については、24時間万全の対応を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一法人名にあっては、管理者(看護師)と病院関係者と密接に連絡を取り合っており、利用者の回復の努めている。また、他の医療機関に入院した際にも同様に情報交換を積極的に行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化した場合は、関係医療機関の主治医の指示を受けて、早い段階からご家族と連携して、ターミナルケアの方針を決定している。	重度化の指針を整備し、今年度も2名の入居者を看取っている。是非、ホームで自然に最後をとる本人、家族の意向は、毎日訪れる家族と職員達の手厚い支援で叶えられ、静かな看取りとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを作成して、応急手当や初期対応ができるようにしているが、個々の職員によるジョブトレーニングであり、系統立てた教育訓練がやや不十分である。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画及び対処マニュアルを作成し、非常時の行動準拠を職員に明示して、防災意識を高揚させている。また、定期的な年2回の防火訓練では、柳川消防署及び消防用設備管理者等の支援を受け、実効性のある訓練に努めている。	系列施設と合同で行う訓練と、ホーム独自の避難訓練を実施している。オール電化の施設のため、カセットコンロや水、レトルト食品、おやつなどを備蓄し、防災に努めている。	夜間を想定した訓練や、緊急連絡簿で実動できるかの点検を是非お願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重して対応している。訪室の際には、声掛けを行うとともに、入浴やトイレ使用時には、プライバシーの確保に努めている。	入居者の人格に配慮した声かけや誘導を心がけ、職員の言動が気になる時には、その場で管理者が注意している。入居者の反応がよい場合や同姓の入居者がいる方には、名前で呼びかけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の目線に立てるよう留意して対話を行い、利用者自らが本人の希望等を言えるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を確認したり、希望を聞いて、あくまでも利用者本位の日々の暮らしづくりに努めている。また、食事時間をずらすなど、その人に合ったペースでの対応を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大多数を占める女性職員の特性を発揮して、きめ細やかな対応により、その人らしい身だしなみづくりに努めている。年2回、職員の紹介により、近傍の美容師がボランティア活動で、入居者の整容を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者にとっても最大の楽しみであり、その準備から後片付けまで、利用者とともに出来ることを見つけて、楽しい食事の場になるように努めている。また、献立作成に当たっては、利用者の好みを聞いて対応している。	入居者の咀嚼や嚥下の状態に合わせて、刻み食やミキサー食等を提供している。旬の食材を取り入れ、天気の良い日には、デッキでお茶を飲むこともある。入居者の状況に応じて、食材の皮をむいたり、洗った茶碗を拭いていただいたりして。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成に当たっては、病院の管理栄養士の意見を聞いたり、職員間で検討して、必要な栄養摂取ができるように努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、その人に応じた要領で、確実にいき、清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレにおいて排泄ができるように誘導して、排泄の自立を行っている。	紙おむつを使用されていた入居者は、時間ごとのトイレ誘導で紙パットが不要になり、日中はパンツで過ごされるようになっている。ストーマ造設者、留置カテーテル挿入中の入居者もあるが、隣接の医療機関もあり、入居者は安心して生活している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時間以外にも10時と3時には、お茶等を提供し、水分摂取に努めている。食事メニューも食物繊維を多く含む献立に留意している。便秘がちの人には、水分摂取と排便の自覚を促しているが、ひどい場合は、主治医に処方による。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則としては、一人当たり週2回の入浴を行っているが、その人の状況や主治医の指示により、入浴回数の増減や入浴日の変更をして、入浴支援を行っている。	三方向から介助できる個浴槽が設置され、2名体制で安全にゆったり入浴介助が行われている。一人ひとり入れ替えられるお湯に、皆、一番風呂を楽しみにされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、努めて起きていたり、体を動かすことで、夜間の睡眠がスムーズにいこうにしているが、その人の身体状況等により、絶えずベッド横臥の状態、夜間、十分な睡眠がとれない場合もある。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「服薬一覧」を作成して、利用者各位の服薬の種類及び効能等について、職員に周知させ、適正な服薬指導を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が持っている様々な能力を日々の生活において、発揮して頂くよう留意しているが、その人の現状の対応能力が低かったり、そのような場の設定もやや不足している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健康上、外に出られる利用者については、極力時間を見つけて、歩行介助または車椅子支援により、近傍の散歩等を行っている。ただし、医療介護を要する利用者に対する支援については、不十分である。	柳川名物のさげもん見学や水天宮祭りには、車椅子利用の入居者が多いため、数日かけて外出している。近隣に桜並木があるので、季節になると、車椅子を押して花見に出かけたり、ホームのデッキに出てお茶をいただき、気軽に外出気分を味わう時もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その観念の大切さについて職員は理解しているが、現実的には困難であり、施設としては、金銭の保管には注意をさせているが、ご家族との連携により、特別な支援は行っていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、施設の電話を利用してもらい、本人自身がご家族に電話をしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設としては、採光・空間の間取り等、すべての面で介護施設としての配慮がなされており、季節ごとに利用者は、快適で居心地の良い生活が送れるようにしている。	ユニットの仕切りをはずした広いリビングの両側にゆったりとしたソファとテレビが置かれ、畳のスペースもある。中央にテーブルと椅子が設置されているが、天窓のある高い天井で開放感にあふれている。浴室は脱衣場が広く、浴槽は両側から介助できるように設けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い居室、戸外のウッドデッキ等、施設の特徴を活かして、思い思いに各人の空間が取れるように工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・ご家族が搬入を希望される家具・調度品等については、極力その希望を叶えて、本人が使い慣れたもので、落ち着いて生活ができるよう工夫している。	居室の間違いを防ぐため、表札の他に名前を大書きした部屋もある。短歌の得意だった入居者の部屋には、達筆の短冊が飾られ、元教師だった入居者の部屋には昔の教え子たちの記念写真が飾られていた。各居室には空気清浄機が設置され、快適な居室づくりが配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全般は、介護施設としての安全対策が万全であり、その中で、利用者一人一人のできることを手助けして、自立した生活が送れるように工夫している。		